

令和2年6月1日
日本介護食品協議会

報道関係各位

「UDF(ユニバーサルデザインフード)」生産量倍増

- ◆前年対比は生産量 241.5%・生産額 150.3%
- ◆製品登録数は 1,989 アイテム
- ◆「介護食品」の認知率ほぼ 5 割(認知度定点調査結果)

<リリースサマリー>

「UDF (ユニバーサルデザインフード)」生産量倍増へ

◆前年対比は生産量 241.5%・生産額 150.3%

今般、日本介護食品協議会（会長：森 佳光（キューピー(株) 執行役員 広報・グループコミュニケーション室長）、会員企業数 86 社）は、会員企業を対象に令和元（2019）年（暦年）の UDF 生産統計を集計した。この結果、生産量 58,387 トン、生産額 43,044 百万円で前年対比はそれぞれ 241.5%、150.3%と著しく増加した。

◆製品登録数は 1,989 アイテム

UDF の製品は、現在 1,989 品目が登録されている（前年同期から 114 品目減）。今回の発表数は調査開始以来の減少となったが、これは昨年度あらたに導入した UDF 申請登録管理システムにより、各社の登録アイテムを精査した結果、終売品の整理がまとめて行われたことによる。

◆「介護食品」の認知率ほぼ 5 割（認知度定点調査結果）

本会では、4 月にインターネットを用いて、「介護食品」や「UDF (ユニバーサルデザインフード)」についての認知度調査（前回は平成 30（2018）年 4 月。隔年調査）を実施した。調査対象は一般消費者で、食事介護者の有無や年代別に集計を行った。

この結果、介護食品が市販されていることを「知っている」との回答は全体で 49.2%であった。年々高齢化率が高まる中、「介護食品」の存在はもはや国民 2 人に 1 人が知るところとなっている。

* 本リリースの詳細については 3 ページ目以降をご参照ください

* 本リリースについては協議会ホームページからもご覧いただけます。 <https://www.udf.jp/>



日本介護食品協議会・ニュースリリース

令和 2 年 6 月 1 日
日本介護食品協議会

「日本介護食品協議会」について ～介護食品の規格を統一～

我が国は、すでに「超高齢社会」となっていますが、以前より食品メーカーでは「介護」シーンでの利用を考慮した食品の開発や販売を行ってきました。しかし、当初の「介護食品」はメーカーによって製品の規格や表示方法が異なるため、利用者の不便が指摘されていました。

そこで、これら利用者の不便を解消するため、食品メーカーを中心に、素材や容器など多くの企業が集まり、『日本介護食品協議会』を設立（平成 14（2002）年 4 月）し、介護食品の「食べやすさ」「使いやすさ」などについて「統一規格」を制定（平成 15（2003）年 6 月）しました。協議会ではその規格に適合する製品をすべての人が食べやすいことから「UDF（ユニバーサルデザインフード）」とし、以降、次々と UDF ロゴマークを表示した製品が誕生、現在もその数は増え続けています（令和 2 年（2020）年 5 月末現在 1,989 品目を登録）。

協議会では、「UDF（ユニバーサルデザインフード）」をすべての利用者に安心して使っていただくために、関連する情報の発信や普及啓発活動、自主規格の整備などを行い介護食品業界の健全な発展を目指すとともに、みなさまの食べる楽しみを通じて QOL（クオリティーオブライフ・生活の質）の向上に貢献していきたいと考えています。

*会員企業数は、令和 2 年（2020）年 6 月 1 日現在 86 社となっています。

「UDF（ユニバーサルデザインフード）」とは

日常の食事から介護食まで幅広くお使いいただける、食べやすさに配慮した食品です。その種類も様々で、レトルト食品や冷凍食品などの調理加工食品をはじめ、飲み物やお食事にとろみをつける「とろみ調整食品」などがあります。

UDF（ユニバーサルデザインフード）のパッケージには、必ず UDF マークが記載されています。これは日本介護食品協議会が制定した規格※に適合する製品だけについているマークです。お客さまが選びやすいよう、どのメーカーの製品にも「かたさ」や「粘度」の規格により分類された 4 つの区分については「容易にかめる」「歯ぐきでつぶせる」「舌でつぶせる」「かまなくてよい」を、とろみ調整食品については「とろみ調整」を UDF マークとともに表示しています。これらの表示を目安にご利用に適した製品を安心して選んでいただけます。

まずはパッケージの UDF マークをご覧ください。

※協議会会員である食品メーカーはこの規格に基づき製品を製造・販売しています。

*UDF（ユニバーサルデザインフード）区分表等については 7 ページをご参照下さい。

【問合せ先】

日本介護食品協議会 事務局

〒101 - 0042 東京都千代田区神田東松下町 10 - 2

翔和神田ビル 3 階

電話 03 - 5256 - 4804 F A X 03 - 5256 - 4805



令和2年6月1日
日本介護食品協議会

<以下、1ページ見出しの詳細>

「UDF（ユニバーサルデザインフード）」生産量倍増へ

今般、日本介護食品協議会（会長：森 佳光（キューピー㈱） 執行役員 広報・グループコミュニケーション室長）、会員企業数 86 社）は、会員企業を対象に令和元（2019）年（暦年）の UDF 生産統計を集計した。この結果、生産量 58,387 トン、生産額 43,044 百万円で前年対比はそれぞれ 241.5%、150.3%と著しく増加した。

■【区分別】

まず、区分別集計の全体（市販用・業務用合計）では、「容易にかめる（区分 1）」が生産量 35,664 トン、生産額 16,026 百万円で、前年対比各 569.1%、301.9%、「歯ぐきでつぶせる（区分 2）」が同 6,294 トン、4,631 百万円、同 219.2%、173.4%、「舌でつぶせる（区分 3）」が同 8,515 トン、9,025 百万円、同 107.4%、108.8%、「かまなくてよい（区分 4）」が同 4,050 トン、4,321 百万円、同 114.7%、117.7%、「とろみ調整食品」が 3,864 トン、9,040 百万円、同 108.0%、104.1%であった。

「容易にかめる（区分 1）」の急増については、市販用 UDF に食パン製品などがあらたに登録されたこと、同様に急増した「歯ぐきでつぶせる（区分 2）」では、業務用において従来介護食品としても活用実績のある製品が UDF を取得したことに起因している。「かまなくてよい（区分 4）」についても引き続き好調に推移していることから、在宅でのミキサーやペースト食の調理について、介護者の負担軽減の観点から引き続き積極的に活用されていることがうかがえる。同区分へは新製品も投入されるなど近年では製品提案が盛んとなっている。

「とろみ調整食品」は、その汎用性の高さから在宅介護においても医師はじめ介護関連職種より利用を勧められるケースが多く、利用度は高い。

市販用・業務用をあわせた全体から各区分の生産量構成比率（カッコは生産額）をみると、区分 1 から「とろみ調整食品」まで順に 61.1%（37.2%）、10.8%（10.8%）、14.6%（21.0%）、6.9%（10.3%）、6.6%（21.0%）となっている。

■【タイプ別】

「乾燥タイプ」（とろみ調整食品や加水して成型する粉末製品を含む）が生産量 3,899 トン、生産額 9,347 百万円で、前年対比はそれぞれ 108.1%、106.6%であった（全体からの構成比は生産量・生産額各 6.7%・21.7%）。「冷凍タイプ」については、16,887 トン、14,903 百万円、同 144.0%、128.0%（同 28.9%・34.6%）、「常温タイプ」については、37,601 トン、18,793 百万円、同 425.4%、228.7%となっている（同 64.4%・43.7%）。

「常温タイプ」の急増については先述の「容易にかめる（区分 1）」の増加に起因している。

「冷凍タイプ」についても大幅な増加となっているが、これも先述の「歯ぐきでつぶせる（区分 2）」の増加を反映している。また、「冷凍タイプ」の大部分は施設や病院給食等で利用される業務用の比率が非常に高い（冷凍タイプの 99%以上が業務用）。

「常温タイプ」は、例年ではレトルト製品、カップゼリー製品が主な構成要素であったが、

令和2年6月1日
日本介護食品協議会

今回の調査ではこれら以外の「その他」製品が増加したことから比率を高めた。「常温タイプ」のうち、レトルト製品については9.3%（生産量ベース）を占めるが、市販用が9割を超えている。非レトルトの常温品にはパン製品やカップゼリー製品が含まれるが85.4%が市販用となっている。一方、カップゼリー製品については多くが業務用に仕向けられている。なお、「常温タイプ」には近年徐々に増加しているチルド流通帯の製品も含めて集計している。

■【販売先別】

まず、市販用、業務用について各全体の生産量と販売額をみると、常温品が中心の市販用においては生産量 34,488 トン、生産額 19,732 百万円で、前年対比はそれぞれ 554.5%、209.5%、施設や病院の給食等に利用される業務用は23,899 トン、23,312 百万円で同 133.1%、121.3%であった。市販用・業務用比率をみると 59.1%（前回 25.7%）、40.9%（同 74.3%）と、前回までの傾向は一気に逆転した。これは先述のパン製品の増加に起因する。

販売先別の各区分構成比率（生産量ベース）をみると、市販用は「容易にかめる（区分 1）」～「とろみ調整食品」の順に 82.3%、2.5%、3.3%、5.9%、6.0%であった。業務用では、同様に 30.4%、22.7%、30.8%、8.5%、8.5%であった。

市販用のうちレトルト製品をみると、前年対比は 108.5%（生産量ベース）と順調に推移している。レトルト製品の区分別前年対比みると（生産量ベース）、「容易にかめる（区分 1）」が 89.5%と減少したが、「歯ぐきでつぶせる（区分 2）」が 106.2%、「舌でつぶせる（区分 3）」が 113.1%、「かまなくてよい（区分 4）」が 116.5%であり、「かまなくてよい（区分 4）」の伸びが最も高かった。市販用は主な販売先としてドラッグストア、総合スーパー、通販での取り扱いが多い。

業務用では冷凍品が7割以上を占めているが、こちらは前年対比 144.2%（生産量ベース）と大幅に増加した。冷凍品の区分別前年対比みると（生産量ベース）、「容易にかめる（区分 1）」が 129.6%、「歯ぐきでつぶせる（区分 2）」が 237.8%、「舌でつぶせる（区分 3）」が 108.1%、「かまなくてよい（区分 4）」が 118.7%であり、「歯ぐきでつぶせる（区分 2）」の伸びが最も高かったが、「容易にかめる（区分 1）」についても大きく増加した。近年では病院・施設での給食において「容易にかめる（区分 1）」、「歯ぐきでつぶせる（区分 2）」の活用頻度が高まっている。

UDF を含む介護用加工食品の市場は、施設や病院での給食を主体に成長してきたが、今後の高齢者行政が在宅介護を推進する方向性を示している中、生活者の介護食品に対するニーズや認知率の高まりもあり、今後市販向け製品の投入がさらに高まっていくものと思われる。

◆製品登録数は1,989 アイテム

UDF（ユニバーサルデザインフード）の製品は、現在 1,989 品目が登録されている（前年同期から 114 品目減）。今回発表の数値は調査開始以来の減少となったが、これは昨年度あらたに導入した UDF 申請登録管理システムにより各社の登録アイテムを精査した結果、終売品の整理がま

令和 2 年 6 月 1 日
日本介護食品協議会

とめて行われたことによる。

協議会加盟企業数は増加の一途であり、利用者の期待に応えるべく各社それぞれの技術を用いて「おいしさ」「食べやすさ」を追求した多くの製品を提供している。今後、UDF 登録製品は再度増加をたどることが見込まれる。

【UDF 製品登録状況】

	区分 1 容易にかめる	区分 2 歯ぐきでつぶせる	区分 3 舌でつぶせる	区分 4 かまなくてよい	とりみ 調整	合計
乾燥食品	0	11	4	0	95	110
冷凍食品	285	252	678	21	0	1,236
常温食品	177	120	200	145	1	643
合計	462	383	882	166	96	1,989

(令和 2 (2020) 年 5 月末現在)

◆「介護食品」の認知率ほぼ 5 割（認知度定点調査結果）

本会では、介護食品や UDF (ユニバーサルデザインフード) の認知度調査を隔年で行っており、調査年の今年は 4 月に実施した（前回は平成 30 (2018) 年 4 月）。調査対象はインターネットアンケートに参加した一般消費者で、食事介護者の有無や年代別に集計を行った。

この結果、介護食品が市販されていることを「知っている」との回答は全体で 49.2%と前回の 49.9%とほぼ同数であった。このうち「家族に食事介護者がいる世帯」を見ると、55.8%が「知っている」と回答（前回 60.9%）。「介護者がいない世帯」についても 47.6%が認知していた（同 47.5%）。年々高齢化率が高まる中、「介護食品」の存在はもはや国民 2 人に 1 人が知るところとなっている。「ユニバーサルデザインフードを知っている」については、全体で 13.2%と前回に比較して増加した（前回 12.3%）。これは「食事介護者あり世帯」を見ると 24.9%であった（前回 25.7%）。ドラッグストアやスーパー（大規模店中心）での製品の取り扱いが増えるなど販売環境の整備が進む中、UDF の認知が徐々に上がっていることがうかがえる。

また、年代別集計を見ると、介護食品が市販されていることを「知っている」について 50 代、60 代以上が各 54.0%、59.5%であった。30 代についても 50.0%の認知があった。「ユニバーサルデザインフードの認知率」については、20～30 代が各 24.0%、15.5%と若年世代が高かった。60 代以上でも 10.0%であった。

さらに、「低栄養」についての認知率では、「よく知っている」11.1%、「名前だけ知っている」28.4%、「初めて聞いた」60.5%であった。「食事介護者あり世帯」では順に、22.8%、34.5%、42.6%と、内容への理解が高いことが分かる。年代別の認知度では、「よく知っている」は 20 代が 13.5%、「名前だけ知っている」は 60 代以上が 37.0%、「初めて聞いた」は 40 代が 64.0%とそれぞれ最も高く、これは前回調査と同様の傾向であった。

令和2年6月1日
日本介護食品協議会

【調査方法等】

- ① 調査方法 インターネットアンケート
- ② 調査対象 インターネット調査会社（ネオマーケティング社）に登録している全国の一般モニター会員 1,000 人（20 歳代～60 歳代以上・男女各 100 名）
- ③ 対象地域 全国
- ④ 調査期間 令和 2（2020）年 4 月

【問 あなたは介護食品が市販されているのをご存知ですか】

「知っている」と回答があった割合

＜全体＞49.2%（前回 49.9%）

＜食事介護者の有無による集計＞

- ・食事介護が必要な方がいる世帯 55.8%（前回 60.9%）
- ・食事介護が必要な方がいない世帯 47.6%（同 47.5%）

＜年代別集計＞

- ・20 代 38.5%（前回 46.0%）、30 代 50.0%（同 41.5%）、40 代 44.0%（同 47.0%）、50 代 54.0%（同 54.5%）、60 代 59.5%（同 60.5%）

【問 あなたはユニバーサルデザインフードをご存知ですか】

「知っている」と回答があった割合

＜全体＞13.2%（前回 12.3%）

＜食事介護者の有無による集計＞

- ・食事介護が必要な方がいる世帯 24.9%（前回 25.7%）
- ・食事介護が必要な方がいない世帯 10.3%（同 9.4%）

＜年代別集計＞

- ・20 代 24.0%（前回 18.0%）、30 代 15.5%（同 13.5%）、40 代 8.0%（同 9.5%）、50 代 8.5%（同 11.5%）、60 代以上 10.0%（同 9.0%）

【問 あなたは低栄養についてご存知ですか】

「よく知っている」および「名前だけ知っている」と回答があった割合（以下、順に）

＜全体＞11.1%（前回 12.5%）、28.4%（同 32.3%）

＜食事介護者の有無による集計＞

- ・食事介護が必要な方がいる世帯 22.8%（前回 25.7%）、34.5%（同 35.2%）
- ・食事介護が必要な方がいない世帯 8.2%（前回 9.6%）、26.9%（同 31.7%）

＜年代別集計＞

- ・20 代 13.5%（前回 14.5%）、24.5%（同 31.5%）、30 代 13.0%（同 11.5%）、24.0%（同 23.5%）、40 代 8.5%（同 12.5%）、27.5%（同 28.5%）、50 代 9.0%（同 12.5%）、29.0%（同 36.5%）、60 代以上 11.5%（同 11.5%）、37.0%（同 41.5%）



日本介護食品協議会・ニュースリリース

令和2年6月1日
日本介護食品協議会



ユニバーサルデザインフード生産統計

日本介護食品協議会

			平成28(2016)年		平成29(2017)年		平成30(2018)年		令和元(2019)年	
			数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)
区分	1	容易にかめる	5,047	3,947	5,397	4,266	6,267	5,309	35,664	16,026
	2	歯ぐきでつぶせる	2,255	2,166	2,494	2,436	2,871	2,671	6,294	4,631
	3	舌でつぶせる	6,526	6,680	7,458	7,392	7,929	8,299	8,515	9,025
	4	かまなくてよい	2,246	2,079	3,264	2,767	3,530	3,672	4,050	4,321
とろみ			3,211	7,703	3,321	8,049	3,578	8,683	3,864	9,040
合計			19,285	22,575	21,933	24,910	24,174	28,633	58,387	43,044
タイプ別	乾燥		3,238	7,790	3,354	8,138	3,605	8,771	3,899	9,347
	冷凍		9,194	8,914	10,508	9,839	11,730	11,646	16,887	14,903
	常温		6,852	5,871	8,071	6,932	8,839	8,216	37,601	18,793
合計			19,285	22,575	21,933	24,910	24,174	28,633	58,387	43,044
販売先別	市販		4,569	7,402	5,068	8,109	6,220	9,418	34,488	19,732
	業務		14,716	15,174	16,865	16,801	17,954	19,215	23,899	23,312
合計			19,285	22,575	21,933	24,910	24,174	28,633	58,387	43,044

※暦年集計

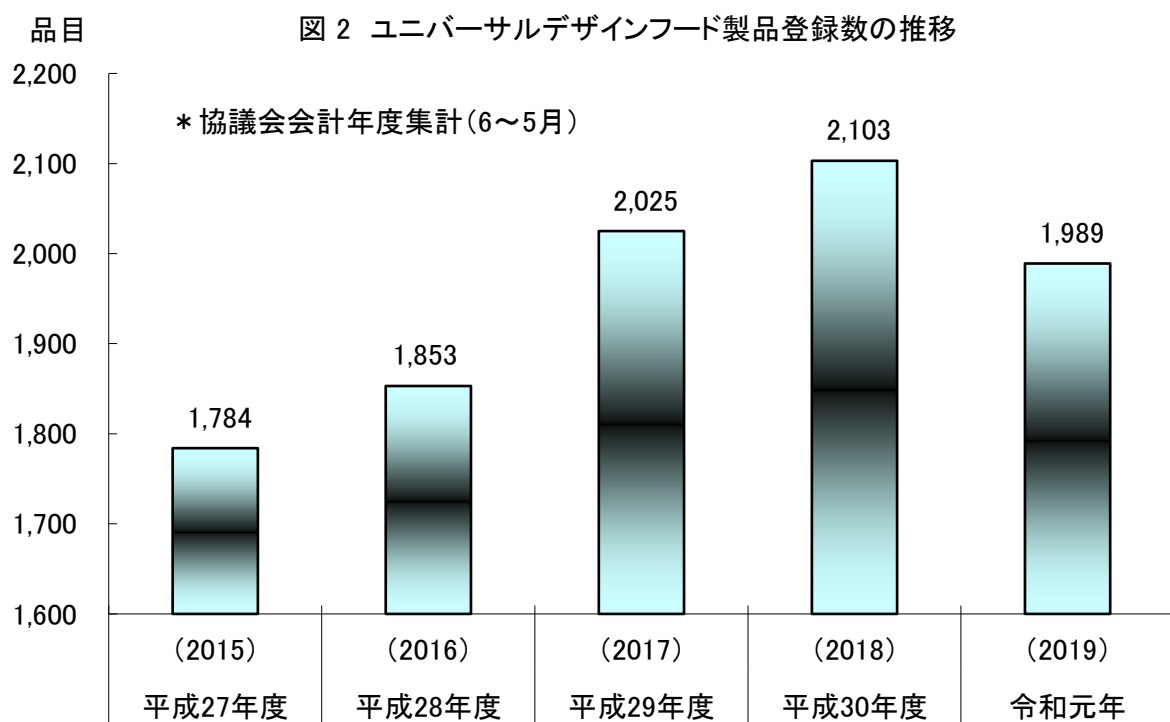
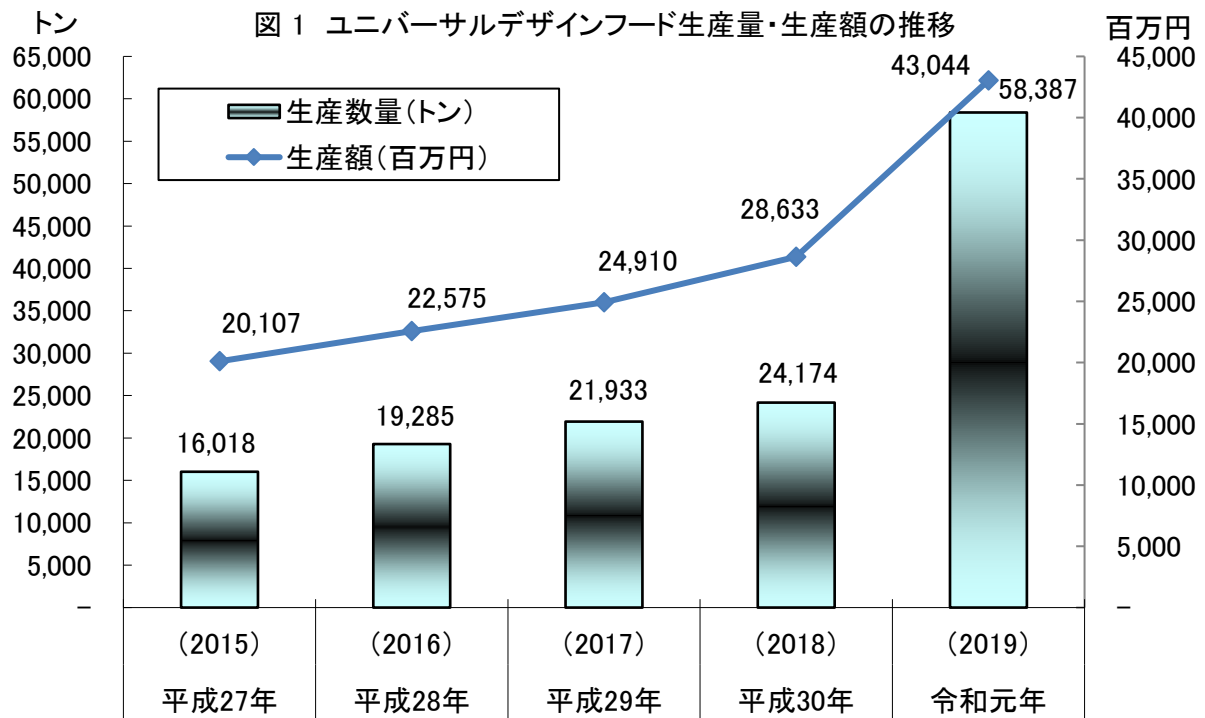
※金額は出荷ベース

ユニバーサルデザインフード令和元(2019)年生産量・金額前年対比

			令和元(2019)年		平成30(2018)年		19/18年対比		19/17年対比	
			数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(%)	金額(%)	数量(%)	金額(%)
区分	1	容易にかめる	35,664	16,026	6,267	5,309	569.1	301.9	660.8	375.7
	2	歯ぐきでつぶせる	6,294	4,631	2,871	2,671	219.2	173.4	252.4	190.1
	3	舌でつぶせる	8,515	9,025	7,929	8,299	107.4	108.8	114.2	122.1
	4	かまなくてよい	4,050	4,321	3,530	3,672	114.7	117.7	124.1	156.2
とろみ			3,864	9,040	3,578	8,683	108.0	104.1	116.4	112.3
合計			58,387	43,044	24,174	28,633	241.5	150.3	266.2	172.8
タイプ別	乾燥		3,899	9,347	3,605	8,771	108.1	106.6	116.2	114.9
	冷凍		16,887	14,903	11,730	11,646	144.0	128.0	160.7	151.5
	常温		37,601	18,793	8,839	8,216	425.4	228.7	465.9	271.1
合計			58,387	43,044	24,174	28,633	241.5	150.3	266.2	172.8
販売先別	市販		34,488	19,732	6,220	9,418	554.5	209.5	680.4	243.3
	業務		23,899	23,312	17,954	19,215	133.1	121.3	141.7	138.8
合計			58,387	43,044	24,174	28,633	241.5	150.3	266.2	172.8

※本統計は日本介護食品協議会会員企業の「ユニバーサルデザインフード」生産統計です。介護食品全体の市場規模を表すものではありません。

令和2年6月1日
日本介護食品協議会



令和2年6月1日
日本介護食品協議会

＜参考資料＞

日本介護食品協議会会員企業は、食べやすさに配慮した食品を以下のように区分し、ユニバーサルデザインフード・ロゴマークとともにパッケージに表示しています。

●UDF（ユニバーサルデザインフード）区分表

区 分	 容易にかめる	 歯ぐきでつぶせる	 舌でつぶせる	 かまなくてよい
かむ力の目安	かたいものや大きいものはやや食べづらい	かたいものや大きいものは食べづらい	細かくてやわらかければ食べられる	固形物は小さくても食べづらい
飲み込む力の目安	普通に飲み込める	ものによっては飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらい
かたさの目安	ごはん	ごはん～やわらかごはん	やわらかごはん～全がゆ	全がゆ
	たまご	厚焼き卵	だし巻き卵	スクランブルエッグ
	肉じゃが	やわらか肉じゃが	具材小さめやわらか肉じゃが	具材小さめさらにやわらか肉じゃが
調理例（ごはん）				
物性規格	かたさ上乗値 N/mf	5×10 ³	5×10 ⁴	ソル:1×10 ⁴ ゲル:2×10 ⁴
	粘着下乗値 mPa-s			ソル:1500 ゲル:1500

※「ソル」とは、液体、もしくは固形物が液体中に分散しており、流動性を有する状態をいう。「ゲル」とは、ソルが流動性を失いゼリー状に固まった状態をいう。

●とろみ調整食品のとろみの目安表示例

【とろみの目安の表示例】

とろみの強さ	++++	++++	++++	++++
とろみのイメージ	フレンチドレッシング状	とんかつソース状	ケチャップ状	マヨネーズ状
イメージ図				
使用量の目安	1g		2g	

水・お茶100mlあたり

●7月11日は「UDF（ユニバーサルデザインフード）の日」

7月11日は、2003年にユニバーサルデザインフード（UDF）の名称とロゴマークが商標登録を受けた日です。

本会では、この日を記念して2017年に「UDF（ユニバーサルデザインフード）日」といたしました。

ユニバーサルデザインフード
7月11日はUDFの日



7月11日は、2003（平成15）年にユニバーサルデザインフード（UDF）の名称とロゴマークが商標登録を受けた日です。

